

## 2 JA道央薬草生産部会（北海道千歳市）

### 産地の概要



**品目** ブシ、トウキ（ヤマトトウキ）

**栽培面積** 65ha（ブシ42ha、トウキ23ha）

**栽培戸数** 18戸（ブシ13戸、トウキ5戸）（令和6年12月時点）

**取組体制** JA道央薬草生産部会（調製・加工、栽培技術指導、実需者との調整）  
（株）夕張ツムラ（以下、夕張ツムラ）（種子貸与、調製・加工、栽培技術指導）

**【協力機関】** 農業改良普及センター、農薬メーカー

**特徴** 土砂落としや異物除去等の加工・調製をJAや実需者が担う体制が整備されているため、生産者は栽培に注力

### 取組の背景

北海道での生産地を探していた実需者から、千歳市を經由してJA道央に打診があり、平成15年度からブシの試験栽培（10a）を開始。その後、「JA道央薬草生産部会」が中心となり、センキュウ、トウキの栽培にも着手し、平成26年度には国の補助事業を活用してブシ専用の集出荷貯蔵施設を建設。これにより、JA道央全域で薬用作物の栽培に取組み始め、現在は大規模栽培に適した省力化を推進している。



▲ブシの栽培風景

### 品目選定理由

- ・3年間の試験栽培を経て、実需者と相談しながら、保水力がある土壌や冷涼な気候に適した品目（ブシ、トウキ）を選定。
- ・ブシ、トウキは、生産者が所有する畑作物用の機械を活用できることも選定理由の一つ。
- ・輪作体系に組み込みやすく、機械を活用することで大規模で省力化栽培も可能。



▲ブシの花

### 課題

- ・ブシ：子根が病原菌等に感染すると収量や品質が低下するため、種苗管理に多大な労力がかかる  
草丈が長い場合、カルチベータによる除草タイミングが難しい
- ・トウキ：収穫後の地上部切除に労力がかかるため省力化が必要

### 主な取組内容（ブシの場合）

#### ①種苗

- ・収穫したブシから取り外した子根を用いる。腐敗しやすいため次作の植付まで保冷庫で保管

#### ②栽培管理

- ・生育阻害要因となる病害虫の発生調査や、施肥等の試験とその結果を踏まえた栽培マニュアルを作成（JA道央薬草生産部会、ホクレン札幌支所、夕張ツムラ、普及センターが協力し、平成29年に作成）
- ・収穫はビートハーベスターを改良した機械で行い、省力化を実現
- ・登録農薬の適用拡大を夕張ツムラや農薬メーカーと連携して積極的に進めている

#### ③加工・調製

- ・生産者にて土砂落としを行い、乾燥調製施設にてスライス乾燥を実施

#### ④集出荷

- ・乾燥調製後、夕張ツムラの集荷拠点に専用コンテナで出荷



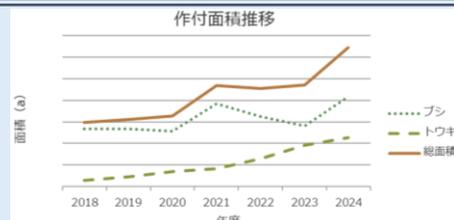
▲専用の乾燥機にて乾燥



▲ブシの収穫部位

### 成果

【取組による定量的な成果】（ブシ・トウキの合計）  
薬用作物面積拡大 H30：42ha → R6：65ha



### 今後の展開

- ・ブシにおいては種苗管理体系を確立させ、作付面積50haを目指す
- ・温暖化等の影響による環境の変化に対応した農薬登録を継続的に進め、更なる省力的な栽培を目指す